湘北 SDGs

Think Globally, Act Locally.

2023 年度　第 3 号

(通算第 9 号)

今回の発行人　簗瀬千詠

yanase@shohoku.ac.jp

学校法人ソニー学園　湘北短期大学　生活プロデュース学科

〒243-8501　厚木市温水 428　TEL:046-247-3131　FAX:046-247-3667

湘北短期大学の SDGs について
ご紹介するニュースレターです

～発行者からのお知らせ～

今年度から、Web サイト湘北 SDGs を開設し、授業や大学全体の取り組みを紹介しています。

ニュースレターでは、
Web サイトに掲載した記事の中から、
学科の授業や部門ごとの活動を、
カテゴリー別にまとめて紹介していきます。

今後とも湘北短期大学は
地域に根ざした教育機関として
「Think　Globally, Act Locally」を
合言葉に、社会課題の解決にむけて
持続可能な未来の創り手を
社会に送り出してまいります。

Web サイト湘北 SDGs↑
最新のニュースは「取り組み」から、
第 1 号から第 8 号は「ニュースレター」
にてご覧いただけます。

ポモナファーム lit.link

ポモナファーム web サイト

プレスリリース

【授業紹介】「生活と SDGs」豊永翔平氏による特別授業を実施

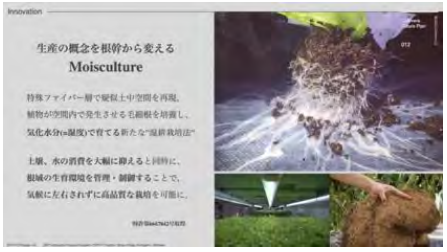
(2023 年 6 月、7 月)

「夢は 100 億人の食を支えるグローバルスタンダード」

6 月と 7 月の 2 回、生活プロデュース学科では、「生活と SDGs」の授業に、特別講師豊永翔平さんをお招きし、「気候変動時代における新たな食と農のかたち」をテーマにお話し頂きました。

最初に、気候変動が私たちの生活に与える深刻な影響を学びました。人口 80 億人が暮らす地球では、温暖化、淡水の枯渇、砂の不足や耕作地の減少などにより、近い将来、深刻な食料不足が来ると予想されています。食料を輸入に頼っている日本では、もし「核の冬の時代」が来た場合には、二人に一人が餓死する可能性があるという研究もあるそうです。

豊永さんは、こうした気候変動と食料不足の問題を解決するため、26 歳で起業、沖縄に研究開発拠点 Cultivera を設立し、環境に優しい独自の栽培技術「Moisculture」を開発しました。これは、特殊な繊維層に水をしみこませ、気化した湿度で野菜を育てるという画期的な特許技術です。豊永さんが三重県多気町に設立した株式会社ポモナファームでは、この技術を使って、トマトやマイクロリーフなどの野菜を生産しています。光合成に必要な環境があれば、土不足、水不足の場所でも農作物を生産することが可能になり、農業排水もゼロで環境負荷を軽減できるということです。



今回、豊永さんには、この技術で栽培されたプチトマト「POMONATOMATO mini」などを受講生にご提供いただきました。このトマトは、講義の数日後に、トマトとしては世界で初めて GABA の機能性表示食品の届出が受理されたことが大きく報じられました。GABA は睡眠の質の改善、認知機能の維持、肌の弾力の回復にも効果があります。今回頂いたトマトは、美味しいだけでなく健康維持にも寄与するということが証明されたわけです。

豊永さんは、持続可能な農業技術を世界中に普及させることで「100 億人の食を支えるグローバルスタンダード」という大きな夢の実現を目指しています。海水農業や、気候難民対策としての海上都市構想など、山積する地球の課題解決に向けて、これからも壮大なチャレンジが続きます。

受講した学生たちは、豊永さんの授業をきっかけに、地球全体に意識を向け、気候変動が深刻な課題であることを理解すると同時に、自分たちには何ができるのかについて改めて深く考える機会となりました。（生活プロデュース学科　簗瀬千詠）

【授業紹介】**「生活と SDGs」絵本を用いた SDGs の学習**（2023 年 6 月）

先日、「生活と SDGs」の授業における新たな取り組みとして、絵本を用いた SDGs の学習を行いました。

6 月の授業の中では、目標 5「ジェンダー平等を実現しよう」の学習の導入として、『せいかいでさいしょにズボンをはいた女の子』（キース・ネグレー作、石井睦美訳、光村教育書）と『RED　あかくてあおいクレヨンのはなし』（マイケル・ホール作、上田勢子訳、子どもの未来社）の 2 冊の読み聞かせを行いました。

学生のコメントシートからは「当たり前のことに気づくのは難しいことなんだと感じることができた」「私は RED の周りの仲間達のように、いつでも相手を尊重して認められるような人になりたいと思いました」と、絵本の内容と自分の内面をつなげて考えている姿が見られました。また中には「どう見ても青いクレヨンなのに、赤いラベルが貼られているだけで、みんなから赤のクレヨンだと思われて色々言われているところで、顔が描かれていない珍しい絵本なのに主人公のクレヨンの悲しい表情が見えました」というコメントもあり、自分なりに想像力を働かせて解釈している学生もいました。

絵本は、多様な解釈が可能な開かれた問いを投げかけてくれます。子ども向けに書かれている簡易な表現の中に、大人がハッとさせられるメッセージが込められていることも少なくありません。学生たちはそのメッセージを受け取って、授業で学んだ知識と想像力を働かせながら、社会の問題とつなげて考える思考力を養っています。　　（生活プロデュース学科　二見総一郎）

【大学の取り組み】 **図書館で SDGs に関する本を展示中**（2023 年 7 月）

図書館では、SDG s に関する本、約 100 冊を展示しています。その内の半分は、絵本です。 絵本は、昔話から現代や未来、食べ物や乗り物などの日常生活、人間の心をテーマとしたものなど、あらゆる分野にわたります。絵本自体が多様性ともいえますし、SDGs の普及を担うにも相応しいといわれています。 また、一般書はわかりやすい入門書が中心となっています。 ぜひ、SDG s に関するたくさんの文章を読んで理解を深め、あなたなりの新たな見解を見出してみてください。（図書館）

【大学の取り組み】 **学内 2 箇所にマイボトルに給水できるウォーターサーバーを設置**　（2023 年 8 月）

8 月 29 日に、学内 2 箇所（1 号館 1 階、3 号館 1 階コラボール）に、学生及び教職員がマイボトルに無料で給水できるウォーターサーバーを設置しました。
注水口の高さを調整することで、色々なサイズのマイボトルに簡単に給水することができます。新たな給水スポットを上手に活用しながら、環境に優しいマイボトルライフを楽しんでみてはいかがでしょうか。

マイボトルの持参は、プラスチックの削減や、大気汚染の対策、海の豊かさを保護にもつながります。現在、ペットボトルは、日本国内だけでも年間 200 億本が使用されているといわれています。膨大な数ではありますが、一人ひとりの意識と行動を変えることの積み重ねによって、プラスチックの削減が実現することができます。

本学では、引き続き環境への負荷低減を目的に、SDG s の推進活動を通じて、「持続可能な開発目標」に取り組んでまいります。（総務部）